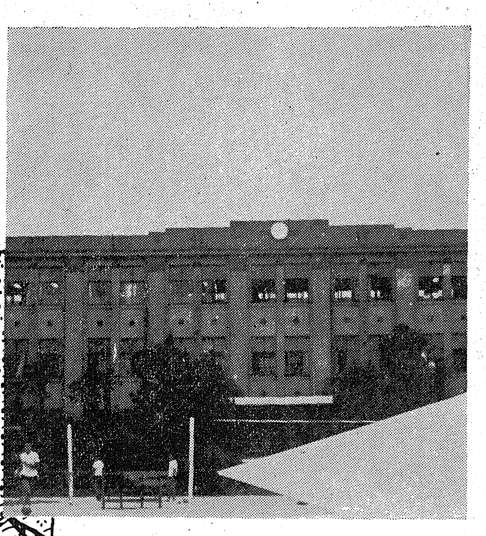
高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町中一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者　青山安江
西田敬子

第23回 昭和45年度 文化祭

今日、開かれる



第二十三回文化祭が、十月三日（土）・四日（日）の両日にわたって、はなやかに開催される。今年は昨年より、認められた〝一般参加〟も二年目。多くの人達の努力によって、より充実した、すばらしいものに成長していることだろう。又、各文化クラブも、それぞれ、過去一年間の活動の成果を、精一杯、展示に表わしたり、舞台発表に出し尽くしたに違いない。この文化祭を、成功に終わらせるか、否かは、私達自身の文化祭に対する〝意気ごみ〟だけにかかっているのである。私達の手で、私達の〝学園祭〟を成功させたいものである。

紙面紹介

一面　文化祭
二面　体育大会　コーラスファイヤー
三面　特集「私の高校時代」
四面　各クラブ夏休みの活動状態

成功させよう！　文化祭

九月二十七日（日）、心配された天気も良くて、華々しく開かれた体育大会。その日から今日までの一週間ほど、各文化クラブにとって、忙しく、且つ又、充実し、張り切って活動した日々は、なかったのではないだろうか。

文化クラブにとって、年に一度の発表の機会である、文化祭。この日に過去一年間の活動成果がすべて評価されるといっても過言ではない。だから、各クラブとも、全力でぶっかり、それぞれのクラブ独特のムードで次第に文化祭への興奮を高めていった。しかし、障害が全くないわけでもなかった。たとえば、最終下校時刻が六時でそれ以後の居残り準備が認められていないこと、文化祭に使える、お金のわくが決まっていて、買いたい物を限定しなければならない……など。しかし、そういう、いろいろな障害も、そのクラブなりに一生懸命、乗りこえて頑張って来た。だから、展示なり舞台なりを見る人達も、ただ、興味本位に見るだけではなく、その中から、何かを学びとってほしいと思う。

又、今年は、昨年より認められた一般参加も、いろいろな人達の努力により、いっそう充実したものになった。

我々、阿倍高生がすべての力を出し尽くした今、この祭典が大成功に終わることを期待するだけである。

× × ×

各クラブ、グループ（一般参加）の発表内容を簡単に説明すると次の通りである。

▼クラブ▲

図書部　島崎藤村と「破戒」
ブラスバンド部　サウンド・オブ・ミュージック、ハンガリヤンダンス第五番など
放送部　サテライトスタジオ
E・S・S　英語劇「安寿と厨子王」
演劇部　「どろぼうの街」
音楽部　組曲「葡萄の歌」、組曲「北の歌」、天使の詩、青空に住もう……など。
軽音楽部エレキ班　ヘルプ、ヤア！ヤア！ヤア！ドント・レット・ミー・ダウン・ツイスト・アンド・シャウトなど
軽音楽部フォークソング班　竹田の子守歌、どうして声が聞こえない…など　一―四においてフーテナニー
生物部　研修旅行地奈良県曽爾長野での野外活動と一般の研究
煎茶部　お点前（剣と禅とによって鍛錬せられた、江戸時代の武士の礼儀作法たる茶法を示します）
茶道部　お点前
点字部　盲人の日常生活について
美術部　時間（一―一、一―二）
文学部　キタモリオ特集
書道部　かけじく、短ざく、色紙、合同作品
洋舞部　ウエスト・サイド物語
華道部　作品陳列
写真部　写真展示
映画研究部　ミュージカル映画特集、新人の紹介、アンケート結果　映画上映
社会科学研究部　朝鮮問題（二―三にて）
地理研究部　夏期旅行の研究結果・輪島塗り
歴史研究部　城の変遷
宗教研究部　自由の哲学的解明
新聞部　定時制高校の実態

▼一般参加▲

○舞台での計画
フォークソング（三グループ程度、各グループ15分以内）
落語（10人程度、一人15分以内）
ゴーゴー（一時間）

○教室を使用した計画
お化け屋敷（物理室にて）
喫茶店（中庭）
サテライトスタジオ
展示場研究発表の会場

○その他
ヨーヨーつり（第一グランドにて）
よろず屋（被服店など、第一グランドにて）
食物店（第一グランドにて）

【投稿】　民主教育の行方

リンカーンがゲチスバーグの演説で「人民の　人民による　人民のための政治」という、名句を残した民主主義は辞書で見ると（国家の主権は人民にあるとする思想に基づき、政治の上で国民の意志を尊重する主義）とある。そして現在の民主主義の反省点として（政治は特定の指導者や前衛の手で占有されることなく、人民の範囲を拡大し広く人々に実質的な形で開放されなければならない）（自由を強調するが、弱肉強食で公害や差別の自由を承認するのではない）などの事があげられる。それらにより、私達は民主主義の目標として、自由、平等の二つを、すべての世界で実現することにあると考えられる。つまり、私達が本当に民主主義を理解するということは、空論に終わるのでなく、行動によって理解しなければならない。それは事実を能動的な態度で見きわめ（策動的な言葉にまどわされたり、圧力を受け屈して節を折ったりしてはいけない。また、思想に、おぼれることも禁物である）それを、知っている範囲で判断を下し、政治的な行動に移すということである。

しかるに、府教委通達は全く民主主義を理解せぬばかりか、生徒の主体制をうばい取り、支配されやすいドレイ人間の再生産を促しことなかれ主義人間、あきらめ人間などを作る母体で、公全とした高校生に対する、国権の弾圧を正当化する道具であることは明僚である。

府教委通達
生徒指導について（要旨）

最近、一部の高校生生徒が府立高校学校の校長室を占拠する等の行動によって、学校の秩序と正常な教育機能を混乱せしめたことはまことに遺憾である。各学校に於ては、本来の目的に沿って学校教育が行なわれるよう、生徒指導についてはとりあえず、下記の事項の徹底を期すよう配承されたい。

1、各学校に於ては、生徒指導体制を確立して教職員間における生徒指導上の共通理解を深め、校長を中心として全教職員をあげて生徒指導に当るこ。

2、生徒の学習不適応、進路等に関する悩み、家庭における不満がややもすれば反社会的な行動におもむく原因ともなるので、一人ひとりの生徒について教師との人間的な接触を深め、家庭とも連絡、協調をいっそう密にして、その環境、性格、心情等についての理解に基づき、生徒指導の徹底を図ること。

3、HRその他の集団指導に当っては、集団の中における個人の責任を自覚させ、真の民主主義のルールを体得させるよう適切な指導すること。

4、生徒が個人として政治的集会に参加することは、社会的経験に乏しく、判断力の未熟から過激な行動に走り、不測の事故等を起こすことも予測されるので、そのようなことのないよう充分に指導すること。

5、万一、このような行為を行なった場合においては、教育的な配慮に基づき適正な方法、手続によって、充分反省と自覚、自戒を促し、再び繰り返さないよう努めること。

これらについて、一つ一つの項目ごとについて少し考えをのべよう。

1、教師の教科以外の個性的な指導を無視しているのではないか、また、職員会議などで決めてある最大公約数的な意見をのぞいて、個性的な意見をのべることにとまどいを感じるのではないか。

2、反社会的な行動、まったくの支配者のギマンであり、政治活動をしている者の、行動の本質のすりかえではないか。家庭とも連絡普通の親は、ささいなことでも学校から知らせが来ると、盲目的に学校の意見を取り入れ、封建的になり子の行動を制限するという心理をよく握んだ弾圧であることは明瞭である。

3、民主主義、個人の考えを政治的行動に発展させることであろうと思うし、民主主義の精神から問えば、現在の社会の多くの悪現象を正すため、ブルジョア的ヒューマニズム（万人は法の前に平等である）を起え、プロレタリア的ヒューマニズム（万人は法の前でも経済的にも平等である）という考えにのっとり、現体制を否定すべく行動するのが当然であると考えられるのに、ルールというギマン的な言葉をつけ、ブルジョア社会的モラルにしばりつけ、現支配体制の維持を確保すべくように働らくのではないか。

4、個人でなくても、生徒だけでは政治的集会に参加を認めないのは明らかであり、社会的経験に乏しいということは計算高くならなく、事件を公平に見られるという観点からすればむしろ良く、判断力が未熟だというのは全く独善的発言に過ぎず、過激な行動に走るというのは、全くギマン的象徴的な言葉であり、高校生を馬鹿にしている。（大人は、公然と戦争をして金をもうけているよ）

5、つまり、ここで善悪を判断せず指導の名の下に、ギマン的な反省、自覚、自戒を無理強いする後だてとして使われるのでないか。それにより、高校生の政治活動を完全に禁止することを再確認しているのでない。

オレがなぜこういう投稿をしたのか。それはこれからの自分の解放を考えると何事についても、默って見すごしてはいけないというあせりから来たのだと思う。また君も、君も、君も默って死んでもらいたくないのだ。それぞれの歴史を作ってほしい。

二年五組　辻田　哲治

補助予算

本年度も、文化祭が開催されるにあたって、各文化クラブと自治会執行部との間で、文化祭補助予算の要請と折衝が行なわれた。

文化祭補助予算を決定するにはまず、各クラブが必要な金額を出し、それを各クラブ代表2名と、自治会執行部とで討議をして、それによって決定されるという方法で行なわれた。

今年は要請金額十二万五千百二十五円に対し、決定金額は七万千百四十三円だった。またクラブ別に見てみると、大幅に減額されたクラブは、放送・ESS・洋舞の各クラブが、また映研・演劇・華道・社研・生物・煎茶・地理研・文学・歴研などの各クラブが、二千円から四千円程度の減額だった。また現状維持か、あまり変わりのなかったのは、新聞・ブラスバンド・書道・美術などの各クラブだった。

毎年、毎年同じように大幅な減額が行なわれている。この原因はいったいどこにあるのだろうか。いろいろと原因はあろうと思うが……。

自治会予算は、あくまでわたしたち自治会員のものであるのだから、わたしたちは、もっともっと補助予算に目を見開き、なぜこんなに要請額と決定額との間に格差が生じるのかといろいろと考え、関心をもって欲しいのである。

なお、本年度の全生徒からの臨時徴収費は、昨年度と同じく一人当たり二百円であった。

各クラブの文化祭補助予算の要請額、及び決定額は、左表の通りである。

クラブ名	要請額	決定額
新聞	2,830	2,315
図書	5,550	3,600
ブラスバンド	2,000	2,000
放送	10,130	5,500
ESS	12,500	3,570
映研	5,750	3,000
演劇	7,600	3,600
音楽	4,320	2,970
華道	5,000	2,600
エレキ	4,500	3,000
フォーク	2,175	1,640
茶道	4,660	3,360
社研	5,430	2,715
写真	2,800	2,600
書道	2,015	2,015
生物	8,340	4,050
煎茶	9,300	4,000
地理研	7,570	2,600
美術	5,820	5,140
文学	4,595	1,795
歴研	5,495	1,108
洋舞	10,000	3,500
点字	2,775	2,320
宗研	3,950	2,145
計	125,125	71,143

＝校内ニュース＝

文化祭の招待状廃止

昨年まで、各人一人に一枚ずつと各文化クラブに配られていた、文化祭招待券が廃止された。廃止の理由を執行部の人に聞くと、「招待状をもって来た人は、どんな人でも入れ、もっていない人を、外見だけで入れないのはおかしい」「他の高校では、すぐ入れるのに我が校だけ、招待券がなければ入いれないのは変だ」「今までは、PRのつもりで出してきたが今年は、ポスターをはる予定で、ポスターの方が費用も安くて良い」と言うことだった。いずれにしても、今年からは、自由に友達を呼ぶことが出来るようだ。

ロッカー設置

夏休みに入いる予定であったロッカーが、去る九月始め、三回にわけて設置された。これで教室移動の時や、体操服の置き場の心配をせずにいけるようになった。しかし、まだ設置されて一カ月とたたないのに、きずがついているロッカーもあり、又、その上で坐っている人もよく見かける。やっと待望のロッカーが設置されたのだから、いつまでも、大切に使いたいものだ。

体育祭の応援費アップされる

毎年行なわれている、体育祭の応援合戦の費用が一グループにつき九千円から、一万五千円にあげられた。これは、諸物価の値上がりを考慮して、一万五千円にアップされたのであろうと思われる。

校内食堂値上げ！

一学期の中ごろから、定食などが〝野菜値上げの為〟とかで、値上げされていた。又、ジュース類も人工甘味料から全糖になったため五円、値上げされていた。ところが、九月一日から、又、〝小麦粉値上げのため〟とうどん類が五円～十円ずつ、それぞれ高くなっている。例をあげると、きつね三十円→三十五円。天ぷらそば三十五円→四十円。ビックリうどん六十五円→七十五円……など。物価の値上がりは、とうとう、我が校の食堂までおしよせてきたようだ。

文化祭一般参加

昨年から始められた一般参加は今年も行なわれる。しかし、昨年始めての試みで行なわれたので、その反省も加え、今年はより一層良いものにするため、一般参加は全体的なものにすることになった又、昨年は運動場を使わなかったが、今年は、個人的に〝落語〟などをする人がいて、舞台も使えないので、運動場に、そのような個人参加ができるような舞台を設置

体育祭一週間前　第二グランド　応援練習に開放

今度、九月二十一日（月曜日）から体育祭が終わるまで、各運動クラブの第二グランド使用は、三時から四時まであけ放してもらうことになった。これは、体育祭の時に行なわれる応援合戦の練習に第二グランドを使うことや、全員参加という目的にのっとって、阿倍高生が協力し、又このようなものになるべく多くの人が参加できるようにという理由である。又、運動クラブの中には、昨年までにも応援合戦の練習が始まると、自主的にクラブをやめ、協力しているところもあったので、今年もそのようなクラブが出てくるだろうから、その意志を反映しようということも理由の一つである。練習場所になっている第二グランドをあけ放すかは、九月十九日のクラブ連絡会に通し、あけるかあけないかは、そのクラブの自主性にまかすことになっている。

（九月十八日現在）

部説

公害と阿倍高生

最近日本では〝公害〟というものが深刻な問題のひとつに考えられている。ひとところに〝公害〟と言ってもいろいろある。たとえば東京で起こった〝光化学スモッグ〟九州熊本県でおこった〝水俣病〟各工業地帯で見られる〝ばい煙〟〝騒音〟など挙げればきりがない。今日本中いや世界中が〝公害〟に悩まされているのである。特に今注目されているものの中に〝光化学スモッグ〟がある。〝光化学スモッグ〟の直接の原因は自動車の排気ガスにあると言われている。思い返せば十数年前、その頃〝公害〟など夢にも思われていなかったであろう。またあの時点においては、産業育成事業に対して国民は賛成（反対が少なかった）をしていた。しかし現在は、全く過去とは裏はらに自動車道を作るとなれば、〝騒音だ〟とか〝風紀〟の点についてどうだとか、といろいろと苦情を政府に出すという状態なのである。経済が発展することは日本にとって輝かしいことではある。しかしはたして、この中に『人間尊重の政治』というものがあったのであろうか。私たちは『人間不在の政治』にひたりきっているのではないだろうか。我々高校生は次の世代を背負う重要な役割を持っている。しかしはたして、この現状のままで、この重要な役割を果すことのできる人材となっているであろうか。ともすれば〝公害〟なんてと考える人が多くなる傾向になりがちである。

人間という動物は、災難が自分の身にふりかかってきたときに始めて、他人の〝不幸〟というものを考えるという悪い癖がある。〝公害〟に対する無知も全く同じ根源から出てきているのではないだろうか。

さてもう一度本題にもどして『公害を起こしたのは何であろうか。』みなさんわかりますか？そうです。答は〝人間〟です。ほかならぬ〝人間〟であります人間が人間を苦しめている。といっても決して過言ではないでしょう。ある科学者は〝田子の浦のヘドロ〟の問題で「田子の浦のような海が全世界に広がれば、海はなくなってしまうだろう。」と言っている。私たち人間は後世の人間のためにもこんな状態を何らかの方法で打破できるように今すぐにでも立ちあがらなくてはいけないのではないかと思うのである。〝公害〟などの問題は、国民と政府が〝表裏一体〟となって進めていく必要性があるのである。決して無関心のままで終わってしまってはいけない。ちょうど阿倍高の〝ビラ〟や〝表現の自由〟の問題と同じような結果が公害というものにも、続いているのではあるまいか。阿倍野高校の生徒である限り、ビラや表現の自由のことを解決しようと努力するのが当然ではないだろうか。

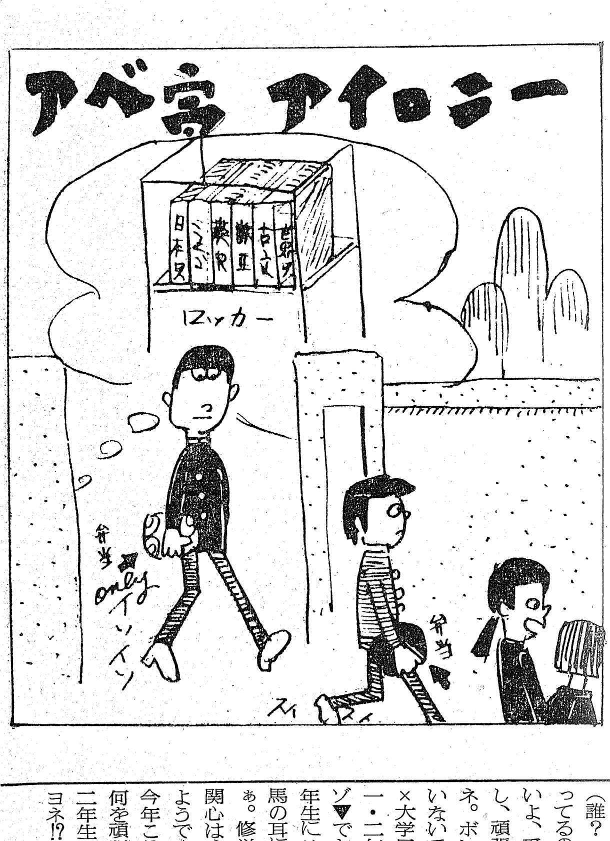
あれほどまでに盛り上がった〝ビラ問題〟も夏休みが終わって二学期になってみると、問題は一体どこへいったやら……。

今まで私たちがつらつらと書いてきたけれども要するに言いたい事は、〝公害〟だけではない、どんな問題に対しても、我々高校生はもっと大きく目を見開き、どれが本当に正しいのかという目を養い育ててほしいということである。

また、〝公害〟という問題を通して、高校生の社会への役わりや、また高校生の〝義務〟ということに関して、じっくりと考え、はたしてこれからの行動（一日一日を暮らしていくことも）をどうとっていくべきであるかとか、自分の〝人間形成〟にあたっていったい何が必要であるのかということを考えてもらいたいと思うのである。

紀伊田辺合宿に思う

今年始めて試みられた紀伊田辺の運動部合同合宿だが、各クラブに感想を聞いてみると、〝食事〟や〝睡眠〟に対しての不満が大変多かった。それで、もういやだという意見もあったが、今年は初めてだったので食事に対しての対策や睡眠などに対しての対策ができていなかったからなど、少し手ぬかりがあったからで、これらを改善すれば、良くなることばかりである。中には、サッカー部のように広い大自然の中で、練習試合をして勝利を得たことは、良い思い出になっただろう。又、マネージャーと部員とが仲良くなり、これからも楽しく活動していけるだろうことは、この合宿での一番の成果だろう。学校内で合宿を行なえば熱射病などで倒れる人が、多く出る現状から見れば、食事などの欠点の対策を考えて行なえば、とても意義のある、この上ないものになるだろう。


アベ高 アイロニー
ロッカー
弁当
スィ スィ

針の穴

このごろ、世間では、新しい「公害」が続出していますナ。ヘドロ、カドミウム、ブタクサ……。いくら、頭のいい針子だって、こう次々と出て来たんじゃ、とても覚え切れないヨ。でも針子だって公害（？）の為に困っていることがあるんですヨ。針子の教室の横で、道路工事をやってるもんだから、うるさくて、うるさくて、おちおち眠ってもいられない。これが、いつまでも続くと、針子、睡眠不足になっちゃうヨ！誰か、対策、考えて!?▼それから最近、飛行機の乗っとりが、大はやりですナ。飛行機を乗っとっても、阿倍高を乗っとるようなヒマ人はいませんヨ。しかし、阿倍高は、平和で、針子とっても幸せ（？）▼ところで、やっと待望のロッカーが設置されましたネ。じらされてじらされて、やっと開けたロッカーの奥深くにはったのは誰の写真ですかナ？針子はちゃんと見ているんですゾ！しかし、ともかく、これで盗難が少しでも減るといいですがネェー▼世間の物価高のあおりを受けて（？）とうとう、阿倍高の校内食堂も値上げ。針子のサイフの中身が、又、又、軽くなってしまう。悲しいナ、グスンでもどうして針子の体重は、ちっとも減らないんだろうナ?!▼あっ、そうそう、万博の入場者は、全部で六千四百二十一万八千七百七十人と言うことでしたネ。針子も、その中の一人に入っているんですヨでも、たいしたもんですネ日本人という民族は。何という物見高い……。今年の阿倍高の文化祭も、第一回文化祭開催以来、最高の人出になるのでは!?なぜって文化祭の格式高い（？）招待券が廃止されましたからネ▼文化祭と言えば今年二年目の一般参加はかなり、数が増えて、活発になって来たようですナ。今年は、「喫茶店」も「オバケ」も出るんですゾ。阿倍高の文化祭も、徐々に、夜店顔負けの昼店化していくのでは？でも、文化祭がにぎやかになっていくのは、針子、うれしいナア▼だからと言って、あまりうかれていてはいけませんゾ。体育大会・文化祭、そして、二年生は修学旅行と楽しい行事が、ずらっと続いて、その後すぐ中間考査なんですヨ。なんといっても、一年中で、一番気候のいい秋なんですゾ。秋!!勉学の秋、スポーツの秋、読書の秋、そして食欲の秋！ファイトを出して、しっかり頑張ろうヨー（誰？「居眠りの秋だ」なんて言ってるのは？）▼三年生は、いよいよ、受験勉強も大詰め。さぞかし、頑張ってらっしゃるでしょうネ。ボンヤリ、よそ見なんかしていないで、それぞれ○○大学、××大学目ざして勉強一すじ（？）▼一・二年生も負けてはなりませんゾ▼でも、一年生はともかく、二年生にこんなことを言っても、「馬の耳に念仏」かも知れませんなぁ。修学旅行もまじかな二年生の関心は、もっぱら、あちらにあるようですからナ▼サア、針子も、今年こそ、頑張ろうっと。えっ、何を頑張るのかって？もちろん、二年生の諸君には、わかってますヨネ!?

ART
club

文化祭の秋
洋舞の秋
〝ウェスト・サイド物語〟
を上演。
ぜひご鑑賞下さい。
洋舞部

自然と接したい人は…
文化祭のオアシス
生物部へ

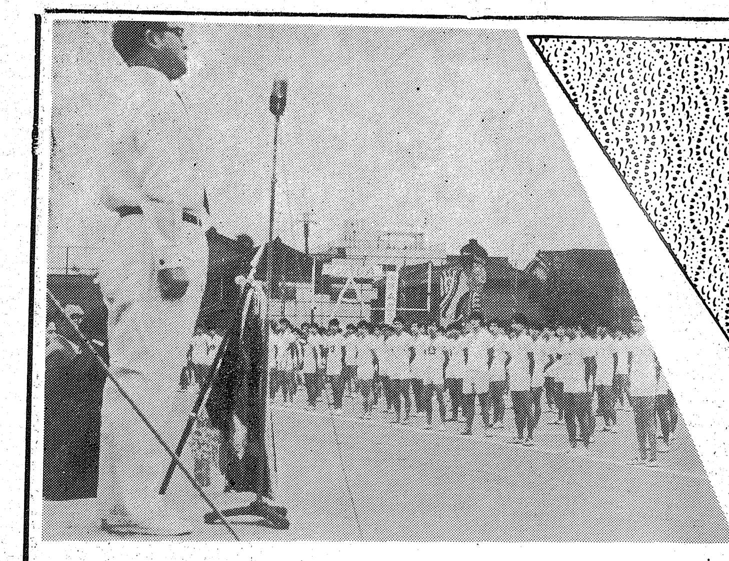
「どろぼうのまち」
講堂にて上演
一人の少女の拾った二万円をめぐって展開するスラム街での一ページと現代社会の矛盾を追求
演劇部

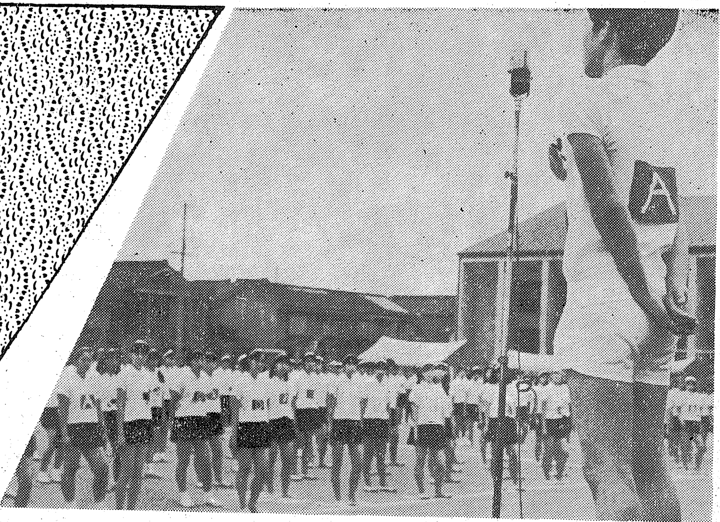
エレキ演奏会
場所：講　堂
時間：11時20分より
軽音楽部
エレキ班
Please Please Me
から Let it be

LIGHT MUSIC CLUB
FOLK Concert
1—4 HR，講堂

第23回 体育大会

去る9月27日（日）、あやぶまれた雨にもまぬがれ、晴天のうちに、各競技や応援合戦が行なわれた。又、大会後行なわれたフォークダンスやコーラスファイヤーにも多数の人が参加し、盛大に行なわれた。





Aグループ優勝

Dグループ応援優勝

今年も例年どおり、ABCDの各グループに分けられ、グループ対抗の競技が行なわれた。その結果みごとAグループが勝利を得た

昨年、陸上競技的なものが減り走りの速さに関係なく、みんながゲームを楽しめるようにということであったが、今年は、又走る競技が増えた。昨年〝綱ひき〟が出たが、もう今年綱ひきをやると、綱が切れる恐れもあるということで、〝玉入れ〟にかえられた。この為、女子は全員玉入れの玉を作らされたが、あまり数が集まらなくて困ったようだった。他になくなったものは〝女子のハードル競走〟〝パン食い競走〟〝千二百米耐久リレー〟で、女子ハードル競走がなくなったのは、女子がハードルをすることは危険だからだそうだ。今年お目見えしたのは、先ほど書いた〝玉入れ〟と〝クラス対抗混合リレー〟である。これらは、七月のアンケートによって増やされたり、減らされたりしたものである。又改善されたものは〝アベック二人三脚〟〝障害物競走〟の二つで、前者は人数を増やし途中から最後まで少しの間、縄とびをするように、後者は、人数を増やしてリレーになった。この案では、昨年より三〇分ぐらい短かくなる予定であったが、みんなの集合状態や、移動時間の浪費や、応援合戦の時間延長などで、時間が遅くなったため、〝職員対抗リレー〟はやめられた。又、例年、一つの課題の下で行なわれていた三年生の仮装行列が、今年は、クラス毎でテーマを決めて行なわれた。三年一組〝死んでもらいましょう〟二組〝世界と日本〟三組〝美へのアドベンチャー〟四組〝こんなかっこうで失礼しまあす〟五組〝世界の踊り〟六組〝世の中かわった〟七組〝忠臣蔵〟八組〝世界の結婚式〟であった。この中からいろいろな賞が与えられ、三年三組は、みごと仮装行列優勝を得た。

今回、着付け競走や仮装行列でよく見られたのは、〝乞食〟であった。又、それが、人々によって感じがちがうので、おもしろく、わざわざゴザを広げて「右や左のだんな様……」といって歩くのは、とてもみんなにうけて人気を集めていた。又、今年は、百メートル競走も、八十メートルハードルも、昨年と反対側からスタートされた。

応援合戦は例年のとおり各グループに分かれて、三分以内という約束で行なわれたが、A、B、C、Dグループ共、時間が延び、注意されるという幕もあった。四グループが時間延長したという点もあげられるが、Dグループの少し他と違ったアイデアが、多くの人にうけたらしく、応援合戦の部ではDグループが優勝した。尚、今年は応援費が、アップされたが、まだ足りないのか、全員五十円ずつ集められた。

又、例年、三年生の仮装行列と共に興味深く期待されていた、先生方と女子生徒との着付け競走は昨年と違い、コマーシャル的なものがあまりなかったようだ。特に人気のあったのが、二年生、藤村先生の乞食、川村先生の道頓堀人形、安永先生の女学生、渋田先生のヒゲゴジラなどで、他の先生方も、いつもの真面目な表情とうってかわり、とてもおもしろいものであった。又、中には、先生が来られると、まわりを取り囲んで、いっしょに歩くという場面も見られた。

スウェーデンリレーやグループ対抗リレーのように息をつめて見るのもあれば、仮装行列、着付け競走のようにおもしろいものもある。来年はどんなものになるか、今から楽しみなことだ。

すばらしい応援態度

今年の応援合戦は、「盛大に行なわれた」という一言に尽きるのではないだろうか。これは、応援のための費用が、昨年の九千円から、今年は、一万五千円に引き上げられた、ということも、大きく影響しているだろう。しかし、何と言ってもみんなの協力があったからこそ、盛大で、且つ又、活発な応援合戦ができたのだろう。今年も昨年と同じ様に、各グループの応援団の人達は、体育大会の約一週間前から、朝早く学校へ来たり、放課後遅くまで残ったりして一生懸命、練習に励んでいた。

デコレーションは、今年は、各グループ、色々と凝ったものが多くて、たいへん良かった。特にAグループのは、評判が高かったようである。

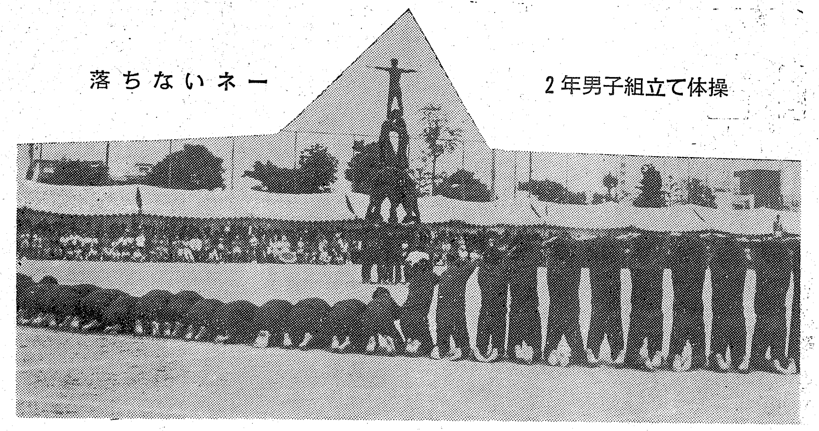
応援合戦の結果は、昨年の点数制と違って、観客の方々に、一番良かったグループ名を、一つだけ書いて頂いて、その票数の多いところから順位をつけ、次のように決定した。

優勝Dグループ（三十五票）以下、Bグループ（三十票）、Aグループ（二十七票）、Cグループ（十二票）であった。これは、競技では、あまり思わしい結果が得られなかったDグループの雪辱といったところだろう。

今年の応援合戦の一つの特徴として、あげられることは、応援団だけが、応援をしているのではなくて、後ろの一般生徒も、声を出して、一緒に応援し、生徒が一体となって、雰囲気を盛りあげていったことだろう。これこそ、本当の〝応援の姿〟ではないだろうか

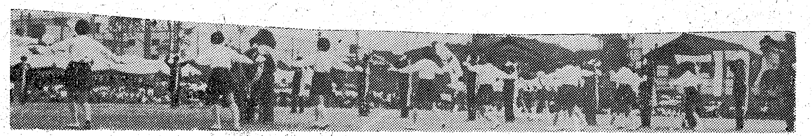
グループ名	クラス名	得点
A	1年 3・8	236
	2年 2・8	
	3年 3・7	
B	1年 4・7	233
	2年 4・7	
	3年 2・8	
C	1年 1・5	223
	2年 3・6	
	3年 1・5	
D	1年 2・6	195
	2年 1・5	
	3年 4・6	

クラブ行進
（ラグビー部）



落ちないネー

2年男子組立て体操



Dグループ応援

仮装行列

体育大会も終わりに近づいた頃、毎年体育大会で一番興味深い、三年各クラスの仮装行列が行なわれた。今年は、自治会から仮装行列費としては出ず、各人百円ずつ集め、各クラス別にテーマを決めて行なったので、各々のクラスの特徴が出ていたようだ。又、今年の仮装行列では、やくざや乞食などが多く、それが又、堂にいったもので本職も裸足で逃げるくらい上手に仮装していた。

感想として何人かの人に聞くと〝バカさわぎしているみたいで、後に残るものがない〟というのが多かったが、仮装行列というものは、バカさわぎでも良いのではないかと考えられる。又〝いつも、真面目でとっつきにくいと思っていた先輩との親しみが増した〟というのもあった。全体的としては参加者が組の数人だけで人数が少なく、参加者と不参加者とのへだたりが、大きかったように思える又、クラス別にみてみると次のような賞などを得た。

一組　**死んでもらいましょう**
でたらめで賞
全学連のように角棒をふりまわしている人もいれば、後ろで変なバケツを竹にくくりつけて歩いている人もいた。

二組　**世界と日本**
まあまあで賞
文学の男女を取りあげていたが、少しPRの不足があったようだ。

三組　**美へのアドベンチャー**
すっきりしてたで賞
男子と女子の役が入れかわっていた。この組は、仮装行列優勝をしたが、この賞のとおり、ベタベタした所がなく、すっきりしていたようだ。

四組　**こんなかっこうで失礼しまあす。**
ばかみたいで賞
乞食がたくさん出てきていろいろな場所で、商売（？）を始めたりして、とても愉快なものだ。

五組　**世界の踊り**
かわいいで賞
この三年生の中では一番まともで、まるでフランス人形のような人達が多ぜいで踊っていた。

六組　**世の中かわった**
気持ち悪いで賞
いかにもドスのきいたやくざが出て来、後ろから女装した美しい男性が出てくる。この組は、余りにも立派に出来すぎて、気持ち悪いと思われたのだろう。

七組　**忠臣蔵**
アイデア賞
多くの士の後を、討ち入りの日が雪だったということで雪女がついてあるき、その後、一人の乞食が歩くというかわったアイデアがうけたよう。

八組　**世界の結婚式**
よくできたで賞
この組は、いろいろな結婚衣装の美しさがひときわめだっていたようだ。

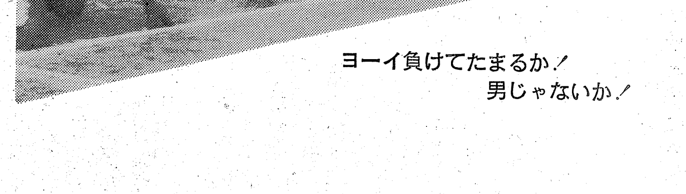
オホホのホ
20世紀が生んだ絶世の美女とは、私のことでゴザーマス。

3―3仮装行列
〝美へのアドベンチャー〟

イヤーン
抜けられないー

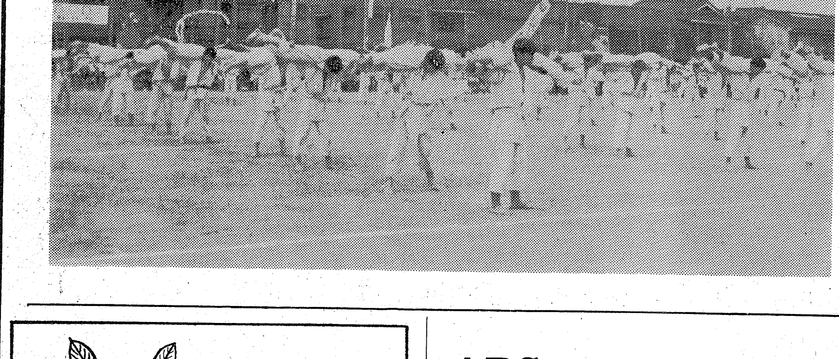
うるわしき女学生?!
安永先生

ネンネンおころり
上田先生



ヨーイ負けてたまるか！
男じゃないか！

右や左のダンナ様
ヨーロッパ帰りの乞食でゴザイ
藤村先生



3年男子柔道体操
カルイ！カルイ！

コーラスファイアー

開始予定時刻を三十分ほどオーバーして自由参加二回目のコーラスファイアーが行なわれた。（今回一年生は、少し不満があった様子だった。体育祭のあとかたづけのために楽しみのフォークダンスが二・三年だけのものになってしまったせいである。）

「友よ」の歌で始められたが、今年はマイクの音が、抜群に迫力があったようだ。しかし、かえってマイクに肉声がおされた様子であった。前もって準備された歌集も配られたが、ものによってぬけているページがあり、歌集に対して不満の声も多かったようだ。

それに、せっかく配られた歌集も照明の具合でみにくく、「ホタルの光」が聞かれるころには、すでにほうぼうに歌集が無残にも、ちらかっていた。

◆

暗くなって一段とムードが盛り上がり、ついには「火」のそばに〝大移動〟がおこるというハプニングな場面もあった。大部分の人が肩を寄せ合い、腕を組み合って互いの親密感を素直に深めていっているように思えた。先生方も参加して一緒に歌いたくてムズムズしておられるみたいだった。去年は相当監視がきびしかったとの声が聞かれたようだが、今年は、なにかぐっと解放されたムードで、男子と女子とが肩を組み合い一緒に歌を歌っている……。そういうなごやかな様子も見られた。しかし一方ではファイアーから離れて少集団をつくって、個々で楽しんでいる、という人も案外多く目についた。それから父兄の方が、〝参加〟という形はとっていないが少数おられた。

しかし、決して良い面ばかりではなかった。みんなが楽しく歌っているのに、それに参加せず、うしろの方にひっこんでいる人が割り合い多くいたこと。それにインタビューで聞いてみたのだが、「司会者が少し歌いすぎるのではないか。」という意見があったこと、照明にもう少し工夫をしてもらいたいということなどである。気になったのは、せっかく参加届けを出したのにコーラスファイアーに参加しなかった人が、いたことである。彼等は、なぜ参加しなかったのだろう？原因は、どちら側にもあっただろう。来年は、もっと積極的に輪の中にはいって歌ってもらいたいものだ。みんなも彼等に「一緒に歌おう」と声をかけようではないか。

約一時間程インタビューして回ったが、少数の人にしか聞くことができなかった。それは時間の少ないせいもあるが、実は聞きにくかったのである。歌っている人の後にたって、いざ質問しようと思っても余りにも熱心に歌っていたのでそれを中断してもらうのがすごく悪いみたいだったのだ。しかし、そうかといって質問しないわけにはいかないので悪い気がしたのだが、聞いてみることにした。

まず「時間が短かすぎる」という声、それから「歌をフォークソングばかりにしないで、流行歌も歌って欲しい」（これはみんなが知っている歌をできるだけ歌って欲しいということから。）

フォークダンスもコーラスファイアーと同時に行なって欲しいという要望もあった。又、「歌を不真面目に歌わないで欲しい」というきつい意見も少数だがあった。だいたい以上のような内容であった。みんな体育大会のあとで相当疲れていると思われるのにまったくそんなことは忘れてしまった様に輪に加わっていた。この日を機会に阿倍野高校は一つになることができるだろうか、本当に約一時間半という時間をさいてこのコーラスファイアーを行なった価値があったであろうか。午後七時半ごろ赤々と燃えた火は消えた。しかしこのコーラスファイアーに参加した人もしなかった人も互いの心の火は消えないだろう。又、決して消えるべきではないだろう。このコーラスファイアーに参加しなかった人は是非、来年は参加して欲しいものだ。決して無駄な時間ではなかったのだから。少なくとも私はそう感じた。

体育祭ニュース

優勝旗、寄贈される

昨年、優勝カップを父兄の方から贈られたが、今年、又父兄の方から優勝旗が贈られた。これは、我が校に優勝旗がないという理由で贈られたものだ。ところが、この優勝旗を贈られるということは当日まで、先生方もあまり知られず、生徒もびっくりした様子だった。前日まで雨つづきで旗が出来るかどうか、危ぶまれたが、ようやく間に合って、当日、寄贈された。

仮装行列で賞がつけられる

昨年までつけられていなかった仮装行列の賞がつけられた。

例年通り、場内を一周して退場するのかと思っていると本部席前で仮装した人々が集合し、そこで渋田先生から〝……でしょう（賞）〟という賞が各組に与えられた

この賞の発表で、仮装行列のもり上がった雰囲気が、又もり上がり、場内からは、笑い声や歓声がわきおこった。

茶部へ！
（無料）

ABS
SATELIGHT
STUDIO
映像と音声の世界
君の心をとらえる
若者の広場
放送部

展示教室　2の3
展示内容　朝鮮問題
1、在日朝鮮人の迫害実態及び法的地位
2、日本の朝鮮侵略と朝鮮の歴史
なお、社研部主催の映画あり
於　視聴覚室
時　10月3・4日午前

COME, COME,
EVERYBODY!
映研パビリオンへ
御越し下さい！
“MUSICAL
SPECIAL,,

どくとるマンボウさんの
青春　（北杜夫の青春像）
2の2教室来たれ！
来てびっくりしなや
文学部

新聞部
〝定時制高校の
実態〟

特集　私の高校時代

あの日あの時……の思い出

◇……今回の特集は、〃私の高校時代〃と題して、過去に我が阿倍野高校を卒業され、現代、いろいろな……◇
◇……方面で活躍されている我々の先輩と、我が校の先生方に高校時代の思い出を書いていただいた。我……◇
◇……々とは、十数年の開きがあるが、同じ阿倍高で過ごされた人の体験記や我々が習っている先生方の……◇
◇……体験記だから、我々の得る事も多分にあることだろう。もっと多くの先輩にお願いしたかったのだ……◇
◇……が紙面や、その人の都合などで、これだけの人に今回は御協力していただいた。…………◇

煙草代が大学進学金に

阿倍野高校校長　根津校長

私は旧制の師範学校に入学いたしました。師範学校は小学校の先生を養成することを目的とする学校であり、五カ年間府県より学資が支給されておりました。その立て替えとして、卒業後一定の期間は小学校の先生として勤務することが義務づけられており、上級学校へ進学する門戸はほとんど閉鎖されておりました。進学するとすれば他の旧制中学校卒業者と同じ資格で高等師範学校（現在の東京教育大学及び広島大学）しかありませんでした。当時国公立の大学を目指すには、国公立の高等学校を卒業しないと行けなかったものです。そしてそのためには中学校へ進学することが絶対に必要な条件でありました、どんなに努力をしても旧制国立大学へは絶対に入学できないコースに入っていることが、どんなに苦痛でありさみしいことであったかは経験した者のみの知る悲哀でした。

在学当時東京高等師範学校進学を目指して一緒に勉強していた者が私と共に三人おりました。卒業時第一回の入試でA君が東京高師英文科に入学しました。私は当時の広野国民学校（現在の摂陽中学校）に勤務しました。つづいて第二回受験の際、B君は数学科に入学しました。私は見事落第をいたしまして、さらに受験を目指して毎日英語・国語・漢文の勉強を続けました。その時、「AB両君が文理科大学を卒業する時には、俺だって国立大学を出ないでおくものか」私はその頃こう決心したことを思い出します。

それから私は竹の筒に小さな穴をあけて下宿につるし、毎日煙草をすったものと仮定して十五銭（朝日一個とみて）ずつをその中へ入れて禁煙を続けてまいりましたこの時の竹の筒の金がその後大学へ進学する学資金となりました。

それから私は一方では小学校に勤務しながら、一方で関西大学の夜学に通学し、時には天六校舎で空襲警報を受け、梅田の地下鉄へ避難して一夜を明かしたことも何度かありました。

終戦と同時に全国の国立大学が門戸を開きました。その第一回入試に受験してやっと初志を貫徹し得たということです。

当時のA君は目下東京教育大学英文学部の助教授として活躍しておりますし、B君は私と同じ職で現在頑張っております。

陸上競技にかけた高校時代

阿倍野高校　体育科教師　渋田先生

出身高校は、府立泉陽高等学校で旧制府立堺女学校で、皆も良く知っている「与謝野晶子」の出身校でもあります。

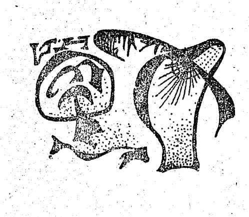
特に高校の記憶をたどってみると、クラブに明け暮れした事の思い出ばかりです。僕の所属したクラブは、陸上競技部と、我が校にはありませんが天文学部でした。

天文学部は、一年生でやめましたが、その時のいろいろの話があります。何故、天文学部に入部したかと言うと、天体を観測するには夜にしか活動が出来ない、その為学校もやむをえず、宿泊を認めていたわけです。つまり学校に泊まれる事が、一番魅力に感じた訳です。

そんな調子ですから長続きするはずもなく、一年で終ってしまいましたが、月の表明のデコボコした形は、今もしっかり覚えています、又近くに堺の刑務所があり、望遠鏡をひっくりかえしてその中の室番号が見えたといっては喜び五階建てのアパートの中を見ては悪友とふざけていたのを覚えています。

それにしても今日ある僕は、高校時代の陸上競技部に籍を置いた時に一端があるのではないかと思われる。何故かと言うと、陸上部に入部してから、特に棒高跳という種目をやらされ、新人大会で大阪で二位に入賞し、それがもとでやみつきになり、朝の朝くから、日の暮れるまで、無我夢中で長い棒を持ってグランドを走りまわりました。その努力があってか、三年生の時、府民大会で優勝することが出来、インターハイにも大阪代表選手になり、あっちこっちへ遠征しました。

その他はといいますと、もと女学校だけに女子の成績が良く、僕自身も女子には、頭があげらなかったような気がします。だが、男女の仲は良く、皆んな適当にうまくやっていましたが、僕の友達は悪友が多く、ずいぶん無茶苦茶な者があり、いつも教師からにらまれていました。しかしそれでも、変に陰にまわってコソコソせず、堂々と正面きって行動し、友達も多く、仲間意識が非常に強く、今でも道で会うと、肩をたたき合って高校時代の話に、花を咲かせます。



受験戦争に動揺した高校時代

大阪大学法学部卒業

十回生　中山　勲

私の高校時代は率直にいって楽しくはなかった。受験戦争のためである。中学時代はろくに勉強もせず、好きなことをやっていた。特に絵には夢中で、独りよがりなものをせっせとかいていた。それで、阿倍校入学もすべり込みだった。一年半程はサボリ癖が抜けず熱心な学友を横目で見ながらなんとなく過ごした。しかし、特に将来の見通しも決断もなかったのでそのうちに受験戦争の渦にまき込まれてしまった。中学生でも知っている知識の習得から始めてどれ程勉強すれば受験に間に合うか、気ばかりあせって、しばらくはやり始めては逆戻りのくり返しだった。なんとか校内模擬テストがこなせるようになると、遺感ながら当時の阿倍校は一流というわけではなかったので、今度は他校の生徒の勉強ぶりが気になった。あせりはつきず、暗いうっ積した気持ちで机に向っていた。

今から考えると、受験に対する心構えも大分間違っていたように思う。なにもそう悲壮になることはなかった。要するにゲームの一種だと思えばよい。基礎知識をルールに従って応用するだけのことである。楽しむ余地もなくはない少くともゆとりをもってやるべきで、その方がずっと能率もあがる最近の入試は知識の量よりも能力そのものを試そうという方向にある。阪大の場合、例えば英語は、あまり珍しい単語には訳がつけてある。従って知識は教科書の基礎的なもので足りる。あとはその知識をいろいろ応用してゲームをするように楽しめばよい。他人の知らない知識や例外を少しでも多く仕入れようという態度は捨てるべきだ。入試で満点をとる必要はない。

私は現在大学で法律を専攻しているが、研究と答案作成とは本質的に違う。論文を書く際、私の場合はキャンバスに向かうときの気持ちを想い起こす。その気分にならなければ何も書けない。創造の芽はその人の個性に従った姿で既に小さい時から育っている。青春時代に真剣に何かを楽しんだという経験はその人の一生を貫く中核になるといってよい。受験戦争は現在でもやはり厳しい。が、そのために自分の中核を忘れてしまったり、自分の個性を発見する努力を捨て去ったりすることのないようにしてもらいたい。

戦時中に送った高校時代

阿倍野高校　英語科教師　小西先生

あと二センチ、一センチ、短刀の切先がブルブルふるえる、浅くそう二ミリでいい、突き立てて、突き立てて、右へすうっと引けばよい、捕りょの屈辱、日本男子として、サア早くせよ、早く、——アア今夜も死ねなかった、全身汗……アカンなァオレ。

——おい、もう一回行こうか

——もうええがナ、こんなもん、一回余計運んだかて、天下の大勢に影響あるかい、

——みんながそう思ったら戦争勝たれへんで

——先生雑炊二杯食べとったで、何も働けへんのに

——ぼく近眼で、予科練だめなんです。もう帰ってもいいですか

——何言うとるか、組から出るまで今日はみな帰さん

昭和廿年八月十五日　玉音放送

——我々のことばとちごてよう判らへんが、決死の覚悟でやれと言うことやろ

同年九月某日、校庭にて

——諸君、昨日まで我々は元寇の際の北条時宗であった。今日よりは四十七士である。いつか必ずこの仇は討つのだッ、ところで長い間勤労動員御苦労であった。褒美として洋服着地一着分を配給する。

これはすぐお米に化けた、親を喜ばすのは嬉しいことである。

一体自分と言うのは何や、こうして一定の空間を占有して、一定の時間いとる、もし自分が死んだ場合はこの空間は空気が満たすだけのことか、生と言うものは宇宙の中で例外的なもんで、まわりは死に囲まれている。この有限の生ア、今日までウカウカ十五年も浪費してしもた。もうどうにもならん、明日、目をさましたら死んでるてことないやろなァ、そんなん死に切れんで、この一回きりのいのち、どうしたら無限になるのや永遠と言うものにかかわれるんや

いのち短かし、恋せよ乙女か

同年十月某日、教室にて

——えー民主主義とは人民の、人民による……でありまして。

旅の楽しさを知った高校時代

ヨーロッパ旅行者

七回生　阿部輝一

二十七年入学の三十年卒業ですから、ざっと十五、六年前になります。当時新聞部員で、阿倍高新聞の編集をしていたので、学校の行事だとか、校舎の移り変わりなども、自分が書いた記事と共によく思い出されます。校舎もその時期に三十数年たっていて、随分老巧化が進んでおり、あちこち傷んでいました。いろいろな設備が、まだ充分でなく、屋上の図書館ができ、体育館もやっとできたばかりでした。現在のプールのあたりに、芝蘭会館という二階建の同窓会館があり、絵画の時間はここを使っていましたが、まもなく焼失しました。

現在も続いているスポーツの対住高戦の第一回が始められたのもこの頃で、幹事の一人として夜遅くまで打ち合わせをしたのを覚えています。長髪、革靴、革カバンが禁止で、修学旅行も男女別々当時は、こんなことが相当の関心事であったらしく、各地の学校から送られてくる新聞もたいていこれらが話題の一つになっていました。政治的関心は比較的薄く、テレビがまだ珍らしい頃で、レジャーの対象も少なく、行動範囲もそんなに広くなかったようです、

私自身について言えば、クラブ活動のことが、やはり強く印象に残っており、図書館で新しいレコードがはいるたびに何度も聞いたので、チャイコフスキーやベートーベンを聞くたびに、その頃の部屋のありさまを思い出します。

また全国高等新聞連盟の大会が東京と日光であり、その帰り、上高地や小諸を訪れ、山と自然の美しさ、素朴な人情に触れ、旅の本当の楽しさを初めて知りました。

それから山好き、旅好きになり、あちこちの山へ登り、ヨーロッパスイスのアルプスへも行くようになりました。

当時の仲間の一人は今、本職の新聞記者になり、ミナト神戸で事件を追っており、もう一人は貿易の仕事でもうけているようだし、私自身は建築の設計で、人様の家を建てるために毎日頭を悩ませています。

——☆——

阿部さんは、最近まで、阿倍高新聞にシリーズものとして連載していた〃海外旅行記〃の筆者です

雑感

阿倍野高校　社会科教師　伊藤先生

私は和歌山県の門前町として有名な粉河町にある創立以来七十年位になる粉河高校で昭和二八年から三一年までをすごしました。ちょうど入試地獄という言葉が田舎にまで及んできた時期でしたが、平々凡々の三年間でした。今さら〃思い出〃というものもありませんが、自治会の議長で議事をまとめるのに困ったり、体育大会で袴をはいて応援団長をしたり、百米やリレーなどの競技で一位になると貰えるバッジを三年間獲得して喜んだり、修学旅行で同じ班の者がビールを飲んで宿舎に帰ってきたのに制裁を加えてしまったり、皆と同じように、その他のいろんな学校行事にまつわるいろいろなことや友達を思い出します。成績もまあまあで、おこがましい言い方になりますが、よそ目には「日の当る場所」にいたようです。

しかし、昭和一九年に戦争の中で、大阪から疎開をしたために、世間狭い地方のことですから、小学校時代は〃疎開っ子〃という環境で家にも閉じこもりがちでしたが、野球部に籍をおくことによって何とか積極性をもつことができました。高校生になると、小学区制でしたが、広い地域から生徒が通学しましたし、戦後数年たっていましたから疎開という意識からは完全に解放されていました。けれども戦争中にお寺で勉強したり奉安殿の前の砂利の中で正座させられたり、戦後の食糧難の時期に母が苦労して手に入れた食べ物で空腹を満たしたり、墨でぬりつぶした教科書を使用したりした、戦争にまつわるいろんなことが頭にこびりついていたためでしょうかわりに社会への関心が強かったようです。まともな書店とてない田舎町のことですから唯一の知識供給源であった学校の図書館から、「世界」や「中央公論」のような雑誌や、易しい哲学書などを借り出して読むのが楽しみでした。それらのことが歴史への関心につながっていたのかも知れません。ただ大変なロマンチストだったのか天文学者になって星ばかり眺めていたいなとか、広い牧場で生活するといいなとか、わけもわからず考えていたこともありました。だから大学の志望校も決めず空想ばかりしていましたが、三年の二学期末になって突然に、将来の就職のことなどは何にも考えずに、子供の時から好きだった歴史を本格的に勉強してみようという気になりました。勿論、家では歴史をやるということは予想もしてみなかったことですし、勉強するんだったら東京にある大学でなければと言いだしたものですから驚きと共に、一寸がっかりした様子でしたが、もう仕方がないなという風でした。担任の先生が日本史専門の方でしたし、相談にいったところ話の途中で何げなく「歴史を学んでいると自分が行き詰まった時に歴史の中から力を得られるからナ」というような意味のことを言われたのが今だに忘れられません。

今でも、もう少し慎重に進学について考えていたら、あるいはもう少し勉強を熱心にしていたら異った方面に進んでいただろうにと思うこともありますが、やはり大学ですぐれた先生方について歴史を学んだことが、私にとってよかったことだと思っています。

高校時代に忘れることのできないのは、たいていニックネームをつけた先生方のことです。その中でも「御大」と呼んでいた古典のに先生は、三年の二学期に国語の時間毎に「源氏物語」の解釈をあてられて自分なりの下手な解釈をやりながら、やっと古典の面白さがわかりました。ただ各教科とも「虎の巻」を使ったことがないだけが私の自慢できることかも知れません。

もう一つは、同じ時代に学校生活を送った友達のことです。勉強運動・遊び・悪戯もいつも一緒だった数人のグループがありました彼らも今はサラリーマンになったり、私同様教員になったりして、それぞれ活躍していることだと思います。

高校卒業後、一度も母校を訪れていませんが、十二年間生活した田舎町と共に、是非一度は訪れ、地に散らばった仲間と一緒に酒でも酌み交したいものです。

ただ、私自身は、常に私の過去は乗り越えられるものとしてだけ存在すると考えていますので、過去への回想に沈潜することだけはやめたいものだと思っています。

△　△　△

日常のなにげない行為で
人間の徳の程度は分る
パスカル

他校訪問

自由な雰囲気の　住吉商業高校

去る九月五日（土）、我が新聞部員は、堺市と目と鼻の先ぐらいに近い、住吉商業高等学校を訪ずれた。南海本線住之江駅で降りて約十分歩いたところにある、住商は、我が校と同じ様に校舎が古かった。ただ、校舎の大部分は、木造でできており近年中に建て直すとのことだった。また、校舎は数が多く、少し小学校の建物のような感じがした。グウンドは広くサッカー部、野球部等が練習していても、まだあいているところが多かった。

一年生は、雨がる漏ところもあるほどの木造校舎で、二年生は、ややましの木造校舎。三年生だけが鉄筋建てで、校舎内に進路相談室があり、前の棚には、就職関係の資料が山のようにたまっていた

プールは、新しく水もとてもきれいで、水泳部員も気持ちよく泳いでいた。

住商では、何よりも体育館が、御自慢の建物のようだった。体育館の中は、我が校と比べものにならないほどの広さで、設備の良さにも一同、うらやましく思った。その広い体育館いっぱい使って、剣道部、バレー部、体操部が練習していた。

クラブは、我が校ほど盛んではなく、また、それほど強いクラブもないが、音楽関係のクラブが多く、ブラスバンド部は、府下三位の実力があるそうだ。

我が校と違ったクラブでは、自治研究クラブ、郵便友の会等、また、商業高校特有の簿記部、英文タイプ部等があった。

男子専門と考えられている剣道部では、新入部員が、男子よりも女子が多く、防具を付けて、さっそうと竹刀を振り回していた。

男子と女子の人数の比は、男子一に対して女子三の割合だそうだ各学年九クラスあり、そのうち、四・五クラスが男女クラスで他のクラスは、女子クラスという我が校の男子生徒には、うらやましいくらいだった。

この学校の最も大きな教育方式の一つとしては、処罰が少ないことがあげられるそうだ。退学処分は、すでになくなったそうだ。むやみやたらに停学だの謹慎だのといって、処罰するのではなく、話し合ったりして、根本となる事を追求し、解決していくことに重点をおいているらしい。

男女交際は、とても盛んで、男女の仲が良く、気楽な態度でつき合うことができるそうだ。学校の中でも外でも活発で、先生もノータッチという状態であるらしい。

商業高校のせいか、進学率が10パーセント程度なので、三年生になると大半は、就職先も決まり、だらけてくる傾向があるらしく、喫煙をするもの、遅刻をするもの等もでてくるそうである。また規則が、きちっとあっても、全体的には、それを十分に守っていないようすらしい。ゲタやゾウリをはいてくる人もいるらしく、また長髪についても禁止されていないそうだ。我が校に比べると少し自由過ぎてもの足りない感じがした

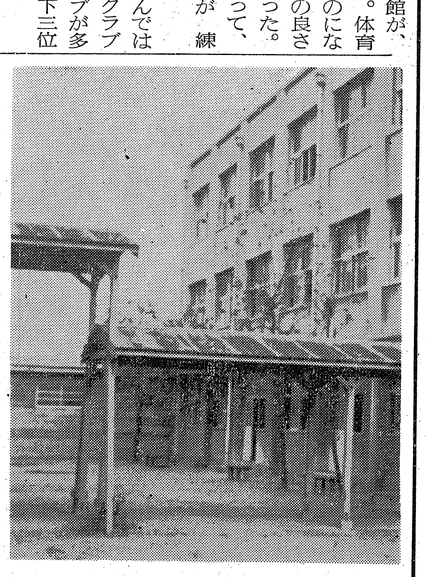
年二回、生徒集会が開かれ、生徒会も活発にやっているらしいが、生徒会の、からまわりになる傾向があるらしい政治活動も割り合い盛んで、自治研究部の部室の前の壁では、「全共闘……」「部落解放……」「大阪決起集会……」等のビラが、何枚も重なり合ってはられていた。

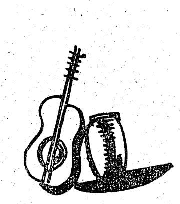
デモに参加しても、先生方は、やいやい言わず、事故があった場合、個人が責任を持って、適切に行動するとのことである。

進路状況は、女子の就職者は、大企業に多く、又男子は、逆に中小企業が主で銀行などに多いそうだ。

先程も書いたが、進学者より、就職者の方が多いので、普通科の学校に多く見られる進学問題が少ないそうだ。この事が、この学校に大きく影響し、いろいろな面で我が校と違うところが見られた。

運動場の向う側には、阪神高速道路が通り、又光化学スモッグの影響を受けたという住吉商業高等学校前身は、我が校と同様に女学校。商業高校の特徴がよくでていて、平穏なムードに浸っている学校であった。





清潔で活気あふれた　河南高校

残暑はまだまだきびしいが、時々吹く風にさわやかな秋を感じる九月五日、我々新聞部員三人は、府立河南高等学校を訪問した。

近鉄南大阪線の富田林西口駅で降りて、ゆるやかな坂道を数分登ると河南高校に着いた。正門を入いると正面の鉄筋校舎の二階からすくっと、白い広い階段がついており清潔な広々とした感じが印象的だった。

少し休んでから案内してもらった校舎は、大きく四つに分かれていた。鉄筋校舎・木造校舎・理科系教室を集めた新館、そして体育館・雨天体操場・柔道場……等の建てものである。鉄筋校舎には、三学年全部の普通教室がある。そして、カウンセラー室・生徒相談室と、相談室が二つもあり学校側と、生徒との親密感を深めようという姿勢がよくうかがわれた。また、百二十人ぐらい入いれる視聴覚室では、時々、安保や、社会問題などを取り上げて、先生方が講義をされることもあるそうだ。そして一階にあるロッカー室で、生徒が上ばきにはき替えることが校舎全体をいつまでもきれいに保っている一つの原因のようだ木造校舎木造校舎は残念ながら暗くて汚れていたが、内部はほとんど文化・運動各クラブの部室などであって、部室の少ない我が校に比べるとうらやましい限りだ。鉄筋三階建ての新館、これはすばらしい校舎である。生物・地学・化学・物現の各科が、実験室・準備室のそれぞれ三教室を持ち、設備が充実しており、放課後はクラブ員などに開放されていた体育館では、男子バスケット部が試合をしていた。少し暗いようであったが、みんな張り切っていて元気な声が館内いっぱいに響いていた。運動場は二つに分かれ、小さい方でバレーコート二面と、テニスコート三面、そして横に二十五メートルプールがあった。少し低い所に大きな運動場があり、野球部が試合をしていた。運動場の横には藤棚が涼しい木陰を作っていて、もう一度、花の咲くころに来てみたいと思った。校舎の見学が終わった後、いろいろ話をうかがった。河南高校としての創立は、昭和二十三年五月一日で、現在、生徒数は、約千三百人。クラス数は、一年やクラス、二・三年はそれぞれ九クラスの計二十八クラス。そして、一学年について五十人ばかり男子の方が多いそうだ

「校風は、のんびりムード」と聞いて我が校と似ているなあと安心したが、生徒達は、割と自主的に活発に行動するということだ。どこの学校でもあるが、忘れ去られたような校訓には「自主的・積極的・社会的　集団的」というのがあった。自治会活動は、非常に活発で、問題もてきぱきとかたづけられ、現在は、特に問題はないそうだ。本校にないクラブとしては部落問題研究部があり、また、卓球部・吟詠部・陸上部などのクラブがすぐれているということだ。規則はきびしくなくのびのびしているようだった。そしてビラまきなどは主体者の名を書けば学校は、ノータッチだということである。週にロングホームルームが二時間あるということも特徴であった。

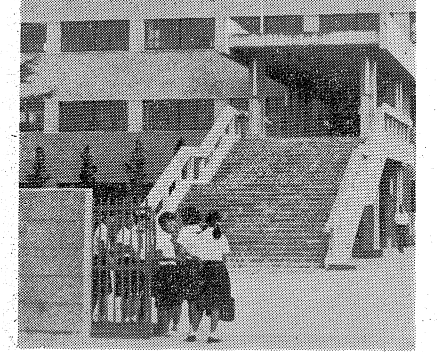
修学旅行は二年の十月に行なわれ、行先は、生徒の希望で決めるそうで、今年は、南九州へ行くということだ。又、十一月末には、校内マラソン大会が開かれ、男子10キロ、女子5キロを、それぞれ走るとのことだ。このほか、春には、バレーボールとソフトボール冬には、バスケットとサッカーのクラスマッチがあるのだそうだ。

コース分けは、三年生からで、今年の三年生は、理科系と文科系と就職クラスの三つに分かれているということだった。しかし、来年からは、文科系と就職とが同じクラスになるという話だった。進学率は、だいたい六〇パーセントで、浪人をする人が多いとのことだ。

朝は、我が校と同じように、八時三十分から授業が始まり、下校時刻は、夏では六時三十分、冬では、五時三十分だった。

又、自転車通学、及びバイクでの通学も許されていた。

我々新聞部員が、この活発で、自由な雰囲気の河南高校を、後にしたのは、五時も幾分か過ぎた時だった。清潔な校舎が美しい夕日に映えていて、すばらしい情景であった。とても、なごりおしい、日暮れだった。



文房具なら…何でもそろう
本校第二グランド前
大谷文具店
TEL （622） 8465

電子コピーサービス

新刊書籍
参考書
書店おゝさきや
地下鉄昭和町駅入口前　TEL （621） 4378

うまい！安い！
たまゆら
南海上町線　松虫　大阪和泉シンダシ線　パチンコ　すし　ここ　至阿倍野
お好み焼き・焼きソバ

★山・スキー・各種スポーツ・服装★
専門店
大阪スポーツ
住吉　堺　松虫　南海上町線　歩道橋　アベノ警察　アベノ
阿倍野区王子町1丁目4—18
—TEL 622 （4351）—

紀伊田辺合宿

お腹が減ったぁ！

我が校の運動部の内、男子バレー、女子バスケット、男子バスケット、陸上、剣道、ラグビー、サッカー各部と、執行部、新聞部が、去る七月二十三日から二十七日までの、南紀田辺合宿に参加した。（ただし新聞部は二十五日から二十七日まで参加）天気にも恵まれ、重病人も出さずに終了したが、合宿での食事や睡眠には大部分の生徒が悩まされていた。その点で部員達は、暑い中を長い道のりも苦にせず、毎日買い出しに精を出したマネージャーが、女神のように見えただろう。また、二十五日の夜から他の宿泊者も来たため、サッカー部とラグビー部が外のグランドでキャンプをさせられたが、これもマネージャーの心づかいで、昼にマネージャーの部屋を使って夜の分まで寝られた。この合宿では、日ごろ感じられていなかったマネージャーの有難さが、しみじみと感じさせられた。

七月二十四日（木）、八時三十分に天王寺の中央コンコースに集合し、十時三十分の出発で合宿生活が始められた。かんかん照りの中を南紀青少年スポーツセンター入口の前で短かい開会式。その後部屋わりなどをして、さっそく練習。途中で少し身体の調子の悪くなった人もいたが、そこは毎日行なっている練習で体力がついているので、すぐ元気な身体にもどった。二十四日から二十六日までは毎日六時半に朝のつどいが行なわれたが、六時半までに一練習をするクラブもあった。夜は又入口前に集合して先生の話を聞き、毎日あきもせずにスイカが配られた。最後の夜二十六日は、八時半から十時半ごろまで、寄宿舎の裏山でコーラスファイアーが行なわれた。二十七日は全員五時起床で、それから七時の朝食の時間まで練習、その後、部屋の掃除や帰り仕たくをし、九時半から十時半まで自由参加の水泳や、クラブによってはミーティングが行なわれ、昼食後又、入口前で閉会式が行なわれたその後、二時二十九分の鈍行にのってゆっくり大阪へ帰った。

右、センター内の50mプール　上、合宿センターの玄関前

南紀青少年スポーツセンター紹介

◇交通

天王寺より紀伊田辺まで特急二時間二十分。急行二時間四十分。紀伊田辺駅よりバスで明洋中学前下車、徒歩で約二十分歩くと玄関につく。

◇内容

昭和四十一年十月の着工いらい三カ年計画で工事を進め、昭和四十四年一月に竣工し、四月に開所したまだ新しい所。総面積十・六万平方メートルの敷地に、二百人を収容する男女宿舎、本館、体育館、研修棟や、陸上競技場（球技場兼用）、五十メートルプールなどが設置されている。体育館は鉄骨鉄筋コンクリート八百十平方メートル、陸上競技場は四百メートルトラック六コース、フィールドは百一×六十四メートル、プールは五十×二十メートルである。

◇環境

近くの山々には松茸山があり、また、野兎など可愛い動物もおり、有名な梅林もある。又山の反対側には、きれいな海があり、そこからは白浜温泉郷、日の岬が見える。その景色の美しさは、言葉で言い表わすことが出来ないくらいである。この海ではフグがつれるらしく、多くの人が糸をたれていた。

陸上部

・練習時間

早朝　五時半〜六時半

午前　十時〜十一時半

午後　四時〜六時半

・内容

早朝練習は軽い体ならしで浜までロードワークなど。

午前は強化練習

午後も強化練習

・部員の健康状態

日射病でたおれたものが二人ほどいたがあまりたいしたことがなかったのは幸いだった。他のものは練習でだいぶつかれてはいたが無事に五日間練習出来た。

・その他思ったこと

食事の時間がすごく制限されてゆっくり食べることができなかった。

合宿クラブの活動状況

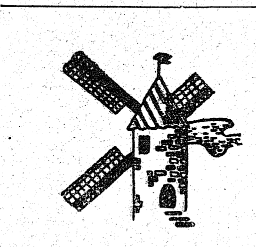
▷　今回の合宿に参加されたクラブの部長に感想を書いてもらった。同じ合宿をしても、各クラブごとでの感想はいろいろあった。ここにその感想を公表する。　◁

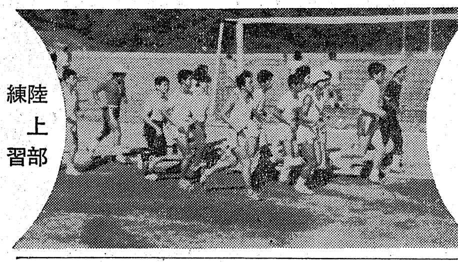
女子バレー部

毎日約六時間（体育館—五時間　オープン—一時間）早朝練習のあった日は計六時間半位の練習時間プレイの面においては、かなりの収穫があったように思われる。一年生もかなり慣れて張り切っていたようだった。オープンでワンマンをした時は、皆自分の力を出し切って頑張った。今までこんなにファイトを出したのは初めてかもしれない。部屋が8人ずつであるので、私の所では、3つの部屋に分かれなければならなかったのが多少残念であった。チームワークの大切なバレーにとって。

和歌山にまでいき、オープンでやらなければならなかったとは、全く意外であった。最初の説明とは、大変違っていた事が残念である。

一番つらかったのは、食事であった。朝から生卵とは、全く消化の悪い事。合宿所の寝苦しかった事、二日目からは、疲れたので、何とか眠れたのだが、扇風機をつけていたので、風邪をひいたり、ぜんそくになったり、私としてはあそこには、二度と行きたくない景色だけは、抜群に良かった。





陸上部練習

ラグビー部

まず、食事の悪さだ。これにはみんな不満をぶちまけていた。行く前は評判がよかったのだが……それに、設備が悪い。部屋の中は暑いし、ウォータークーラーもない。

その奥の原因として行くクラブが多過ぎたことなどがあげられる。マネージャーから、管理人がうるさ過ぎるという意見もあった。その他、体育館の石のような床にはまいる、など悪い点をあげるときりがない。そして「良い点は？」とたずねると空気よし、ながめよし程度であった。

結論として、学校でする方がむしろ効果があったろうということである。心配されている暑さの点では、どちらもチョンチョン。学校でやれば前にあげた悪い点は皆解消されるし、又チームワークを要とする我がクラブでは部員全員が集まれる部屋があることはこの上ないことなのである。

男子バレー部

ずばり言って今回の合宿に対し部員誰ひとりとて「よい合宿だった。」とは答えなかった。しかるにその要因を追求、正したところ、成績は以外にも容易に白状した。何と言っても飯のまずさを皆は強調する。次に無計画過ぎたという点が目立つ。その原因はいろいろ考えられる。初の校外合宿、それゆえ体育館の使用割当がはっきりせず又、食事の時間なども時としてころころ変わったこと。また

良かった点は、グラウンドが芝生で走りやすかったこと、あまり疲れないし、けがもしにくい。チームワークという点では、非常に良くなったと思う。今度の合宿の目標はそれだった。次には技術強化だったが、あまり効果が上がらなかった。

他クラブとの交流が少なかったし、又、合同合宿をやる時は、そんな点を考えたらどうかと思う。

サッカー部

合宿での練習は、すばらしい環境のもとで行なわれまずまずの出来であった。

練習内容はやはりシゴキに近い事が多く中にコンビネーションなども取り入れ、基本的な練習を組み立てた。またサッカー部の合宿としては、異例の練習試合を二試合ほど行なったが、対戦成績一勝一分けで仲々のできであった。グランドの芝生がイレブンをかきたてたのであろう。

練習の時間は試合で少々計画にムリがあったことを反省してるが決められた時間を有効に使おうと早朝練習なども取り入れた。まずは練習のための練習である。そして午前は九時から二〜三時間、午後からも三時から二〜三時間の計画で練習が行なわれた。

また、合宿で不満な事が二つあった。その一つはテント生活でただ一つ涼しいことだけがささやかななぐさめであった。もう一つはグランドの割り当てである。ひどい時には三分の一しか使用できなかった。これら二点を改善されればサッカー部として来年もぜひここで合宿したいものである。

男子バスケット部

今度の合宿で良かったと思うところは、団体生活で規律正しい生活ができて、チームワークがかたまったことと、自然の中でクラブ活動ができて、大きな収穫が得られたことだ。また、悪かったと思うところで、第一に食事がまずく食べられない為、少し練習にさしつかえたことだ。これは大変練習にひびいた。それに、キャンプファイアーは、寝ぐるしかったのでよく寝れずあくる日に大変さしつかえた。又、体育館があまり使用できなかったのが残念だった。来年からは、もう少し早く計画をたててほしいと思う。

×　×　×

女子バスケット部

体育館が常用出来なかったのがバスケットにとっては最も残念なことだった。設備が整ったスポーツセンターだと言うので期待していたのだが……。体育館を使用するクラブにとっては大きな痛手だったと思う。

また、食事のひどかったこと。スポーツをする人を多勢あつかってきたセンターとは思えない。今後、もう少し改善してほしい。

団体行動で規律が出来たが、それによって練習に支障を来たすこともあった。

バスケットとしては、一応、合宿は各クラブごとにする方がよいという結論だった。

剣道部

スポーツセンターは全体として施設はととのっていてよかった。しかし、剣道部としては板張りの道場又は体育館がほしかった。時間的にいって施設の使用時間が前日の夜にしかはっきりせず、計画がたてにくかったし、他クラブとの関係もあって、毎日の練習時間がちがったというのもやりにくかった。また午前の練習と午後の練習の間に、あまりやすみがとれなかったのも残念であった。

体育館なり、運動場なりを、いくつものクラブが同じにつかえるよう広い所をのぞむ。

◇

◇

◇

合宿感想

不満だ！

今回の紀伊田辺合宿に対して新聞部では、参加した各クラブに感想を聞いてみた。しかし、みんな不満が多くて、「もういやだ」というような感想も中にはあった。感想を並べてみると次のようであった。

▼良かった点

- 景色
- 設備が良くグランドもくてよく練習できた。
- クラブの親睦が深まった

▼悪かった点

- 食事がまずくて食べられない。
- 南紀センターの人々の態度が悪い。
- 夜、暑くて眠れない。
- 消燈が早すぎる。
- 部屋が狭いのに多くの人が寝るので、扇風機などではまに合わない。
- 買い出しに行くのが遠いのでしんどかった。（場所が悪い。）
- 冷たい水などがないのでお金を出さなければならなかった。
- 帰りの電車が普通なのはしんどかった。

▼来年から合宿に対しての希望

- たくさんのクラブが集まっていくより、一つのクラブで行きたい。
- もう合宿はやめた方が良い。
- もっとすずしい所へ行きたい。

朝のつどい

運動部

マネージャーの大奮闘

運動をして、疲れきって空腹になる部員ばかりなのに、寄宿舎の食事ときたら食べられるものが少ない。朝一〇〇円、昼一五〇円、夜二〇〇円の料理だそうだが、なかなかこれでは足りない。そこで先生方はこれでは余りにもかわいそうだと、本部から毎晩一人百円出して、それでマネージャーが自分の部員のおかずを作るということになった。ところが、寄宿舎が町はずれにあるため、町まで買い出しに行かなければならないのだ。暑い中をテクテク歩いていくのは、いつも運動していないマネージャーには、まいってしまう。しかし、そこはマネージャーも、かわいい（？）自分のクラブの部員のために、より良いものをより安く、腕をふるって作ろうというわけ。何ぶん、町といっても、小さなスーパーがあるだけ。選ぶとも出来にくい。それに一人百円では、十分なことはできないそこで、活躍したマネージャー。

将来は、とてもよいお嫁さんになる素質のある人ばかりでスゴイねぎり方。見ている方もビックリする程。帰りは、西垣先生や渋田先生が決まった時間にむかえに来られるので、その時間内にネギッテより良いもので、皆の喜ぶものを買おうというもの。又、料理をする時の苦労も大したもの。使いすぎてか、切れなくなった包ちょうできれいに切ろうとするのだからなみたいていでは出来ない。最初は良かったが後半では冷蔵庫が使えなくなり、冷やすのにも一苦労。まだ食事の他にも洗たくもしなければならないし、部員の身体の調子も考えなければならない。こんなに忙がしい中でも不満一つ言わないでやっていたマネージャー。見ていた我々は驚いたが各マネージャーに聞いてみたところ、このような答えが帰ってきた。

サッカー部↓とても楽しみながらやっていた。しんどいなんて全然思わなかった。もっと居たかった

男子バレー部↓しんどかったが皆と、特に一年生との親密感が増した。買い出しや、明洋中学まで練習を見にいくのがしんどかった。

男子バスケット部↓楽しかった。仕事がなさすぎた。

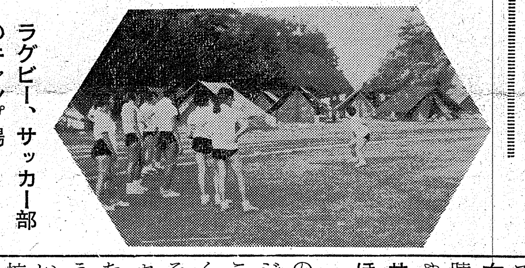
ラグビー部↓買い出しがしんどかっただけ。

陸上部↓仕事は多かったけれど、部員が手伝ってくれたので楽しくできた。

女子バスケット↓朝の基礎練習の時ずっと外へ出っぱなしで暑くてやりきれなかっただけ。

サッカー部員がマネージャーにごほうび

この合宿のコーラスファイアーの前に、サッカー部員が同マネージャーに帽子とコーラを贈った。これは、この合宿でも、みんなよくやってくれたと感謝したからだそうだ。これをもらったマネージャーは、「うれしくてうれしくてたまらない」「みんなの気持ちがうれしい。気持ちだけでもうれしい」「もらったとたんに、今まで忙しくてしんどかったことが、ふっとんでしまった」など、いかにもうれしくてしかたのない様子。中には涙を流した人や、帽子をかぶったり、ぬいだりしている人などがいて、他のクラブのマネージャー達がうらやましがっていた。



ラグビー、サッカー部のキャンプ場

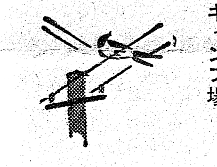
―紀伊田辺合宿―

コーラスファイヤー

最後の二十六日の夜、八時半にセンターの裏山でコーラスファイアーが行なわれた。センターから各クラブで何個かずつたき木をもってのぼっていった。皆が集まったところで、陸上部の沢田君のもつ聖火の入場で始まり、サッカー部の〝これが青春だ〟から、最後に皆で合唱した〝今日の日はさようなら〟まで、楽しい二時間余りを過ごした。特に目立ったのは、剣道部が〝ひょっこりひょうたん島〟を歌い、二曲目に、三年生の伊達君を先頭に三人の剣士がユーモラスにおどったり、校長先生が二曲も美声（？）で力唱されたり、又先生方全員で〝山男の歌〟を歌われたりしたことだ。又、全クラブの歌が終わった後、多くの女子部員からの願望で再び剣道部の伊達君のおどりと「ヒイサンオドレ」「ヒイサンオドレ」の声援で、男子籠球部の桜井君の歌が披露された。それから、渋田先生が、思い出深い歌だと〝遠き山に陽は落ちて〟を歌われた。思い出が何か少し気にかかるようなことだが、とても良い歌だった。最後に、皆で〝今日の日はさようなら〟を合唱し、後しまつをする人だけ残して、寄宿舎へ急いだ。少しの部員だが感想を聞いてみると「練習はしんどかったが、コーラスファイアーで疲れが吹っとんだ」「コーラスファイアーが、この合宿の中で一番おもしろかった」などであった。

合宿について

執行部見解



7月23日から、我校では初の試みとして校外合宿を行い、執行部も、合宿参加クラブと同じようにひとつのクラブとして参加させてもらいました。まず最初に感じたのは、食事があまりにも粗末だったこと。執行部はしんぼうできましたが、クラブの人にとっては耐えられないものだったと思います。いろいろ不満はありましたが、運動部も私達も、五日間同じところに泊まり、それぞれ学校では得ることのできない連帯もつくりだせたと思います。運動クラブと一緒であったので少し場違いの様な気もしたのですが、二学期からの展望をたてるためと、この際執行部として、運動クラブの活動状況も知っておいた方が良いだろうという目的を持っていました。後者については合宿という特殊な状況のもとでしたので、あまり得るところはありませんでしたが、現在与えられた文化祭・体育大会…等の展望、また広い意味での自治会活動の展望を持つ事ができ、かなり意義があったと思います。

夏休み

クラブ活動

柔道部

夏休みの前半は、練習も充実していて三年も参加したりしたが、一年の臨海があってからは、盆で帰省したり、けがなどで練習も思うようにできず、十六日の試合はさんざんであった。後半も、だらだらして何となく過ぎたが、今は新しい一つのまとまりとして練習しているつもりである。

ハンドボール部

夏休みに入って早々強化練習が始まった。朝二時間・昼二時間練習時間はそう長くないが、運動場での練習はこたえた。強化練習が終わってまもなく生野から合同練習を申し込まれ、二日間いっしょに練習した。強化練習・合同練習を通じ、気合いの大事さ、特に強化練習は、練習がきびしいだけに気力、精神力が養なわれ、ボールに対する執着心・チームワークが整い、大変よい練習だった。

ぼくたちのクラブは、一年生と三年生中心で、二年生は、二学期になると忙がしくなるので、三年生は、その日その日の練習が一年生にとって大事だし、三年生も熱心に教えてくれるので、一年生も一生懸命練習に励んだ。又、マネージャーもよく努めてくれた。

八月にはいると、一年生の臨海のため、10日まで休み11日から練習が始まった。又最初の日は浜寺まで走り体力を回復した。八日の練習内容は、フォメーションや速攻の練習、主に試合形式の練習をし、試合できる体制になった。

体操部

今年の夏は田辺のスポーツセンターの都合で合宿はできず、強化練習だけだった。

しかし、多くの先輩にも参加してもらって有意義なものになった。強化練習は七月の末に五日間毎日男子6種目、女子4種目を午前と午後に三時間ずつ練習した。

又、最後の日には試技会をし試合形式で演技をやって先輩におよその点や欠点等を指摘してもらいそれを後の練習の参考にするのである。

又、大会は八月十三・四日に中央体育館で行なわれた。体操の場合、大会は年に三、四回しかないのでクラブをする上で重要な位置を占める。大会では個人と団体があり団体の場合、自分の得点が団体総合に結びつく。

しかし団体とはいっても団体競技の様にみんなでかちとるのではなく最終的には一人である。たよれるものは自分だけであるだから試技前の不安や緊張は他のスポーツ以上だ。それにもまして終ったときの解放感・さわやかさはより大きい。

野球部

今年の夏期練習は七月二十三日から行なわれ、練習時間は土曜を除き一時〜五時までであった。

—主な活動内容—

八月前半は個人の特訓、後半はコンビネーションを主体にして練習をやってきた。

夏期練習は夏休みでもあるので日曜日は休養日とした。

八月の最後の週には、東住吉工河南高と試合を組み、連勝した。一応目標を九月の秋の近畿高校野球大会においてがんばってきた。

合宿の寄宿舎の前

車でプールに来る人が多い

登山部

七月二十三日より北アルプス後立山方面の登山を行なった。このコースは先の登山顧問との話合いではかなりの難コースで、現登山部では目的達成が可能かどうかが問題だった。しかし、部員全員の要望と、ヘテラン顧問の参加により可能となった。登山準備期間が今年は一週間ほどしかなかったがこの短い期間に、試験後の体力回復と装備点検、食糧買出し、しおり作製などの仕事が課せられた。部員人数が少なかったため、たいへんな苦労であったが、一年部員と二年部員が互いに協力し、暑さにもめげず頑張りました。顧問の先生方も積極的に指導と協力をして下さいました。こうして、今年の夏山も一応計画通りに行なえました。といって何もかもがうまくいったのではありません。我々登山部に色々問題を残し、登山経験の豊かな先生方にも数多く、欠点を指摘され、我々部員の未熟さがよく教えさせられました。夏山が終ってから反省会を開き、こういった点を打破することを夏期休暇の最大の目標として励みました。また、その成果をためすため月末に大峰山へ出かけたりしました。

ワンゲル部

七月二十七日から三十一日まで夏期合宿として白馬岳に登った。真夏の七月というのに、まだ雪が残っていて、スキーをやっている人もいた。合宿に入る前は、トレーニング。行程の説明。汽車の予定など、とても忙しく下校時間ぎりぎりまで学校にいた。白馬岳、それは標高二九三三メートルという高い山であるけれども、一般の人達でも、少し練習さえつめば、十分登れる山だと思う。我が、ワンゲル部は、四泊五日を楽しく、また、無事に帰ってきた。

クラブにとって最大の行事、夏季合宿を終え、少し休んだのち、夏休みの後半から、一年生の体力養成、技術進歩を目標にして、毎日のように、がんばってきた。

これからの、ワンゲル部は、山あり、ユースホステル泊りなど、阿倍野高校で一番楽しい、クラブになるように、クラブ員一同一生懸命がんばっていきたい。

軟庭部

今年の夏期練習は、例年よりもゆるい練習だと言われているが、初めて強化練習を行なう一年生にとっては、夏のきびしい暑さにそうとうこたえた様です。しかし、一人の病人やけが人もなく充実したクラブ生活をおくれました。練習方法もふだんできない様なことを、時間をかけゆっくりと仕上げていった。特にOBの方が毎日、熱心にコーチしてくださったことを感謝しています。

さて、国体予選には、男子5チーム、女子2チームが参加しましたが残念ながら中央大会に進む権利を得ることができませんでした。これからは、もっと心と力を合わせて、立派なクラブを作り上げたいと思います。

水泳部

夏休みに入いり、我が水泳部は毎日泳ぎに専念した。八月十日から十五日までの強化練習には、朝九時から下校を前までなんと九千九百メートルを泳ぎきり、夏休み中における総距離は、おそらく日本を縦断するに足る十分な距離を泳いだであろう。

この泳ぎ切った自信を持って、各自七月のインターハイ予選、八月の府立系大会、国体予選にいどみ、そのうち府立系大会においては、団体戦で金元、万福、星野、木村による男子八百メートル継泳に決勝進出をみごと果たし、府下七位の成績を収めた。一方個人戦で八木が男子百メートル平泳ぎ、高塚が女子五十メートル蝶泳・百メートル自由形に決勝進出し、うち、高塚は両種目とも府下四位の成績を収めた。他の選手達もよく頑張り、それぞれ惜しいところで決勝進出のチャンスを逃した。

以上が我が水泳部の夏休み中の活動状態である。

最後に、一年生諸君に告ぐ！今からでもおそくはない。泳ぎたい者はすぐプールへ来られたし。我々一同、君を待っている。

夏休み

クラブ戦歴

▼剣道部▲

第二回四校対抗戦

河　南2—4阿倍野

勝　山1—3阿倍野

天王寺1—3阿倍野

第25回大阪府下高等学校総合体育大会

三国丘2—3阿倍野

国民体育大会大阪府予選

鳳　4—1阿倍野

▼ハンドボール部▲

練習試合

東住吉10—8阿倍野

生　野8—12阿倍野

生　野6—8阿倍野

▼野球部▲

練習試合

東住吉工4—10阿倍野

河南　4—7阿倍野

市岡商　4—18阿倍野

上　宮8—4阿倍野

▼卓球部▲

国体予選

3回戦進出

新人戦

5回戦進出

京阪神予選

3回戦進出

▼柔道部▲

大阪高校総合兼団体選手選考会

佐　野5—0阿倍野

▼硬庭部▲

大阪府高校庭球大会

追手門6—2阿倍野

豊　中3—6阿倍野

四条畷6—0阿倍野

泉尾工5—7阿倍野

寝屋川6—3阿倍野

建　国2—6阿倍野

春日丘0—6阿倍野

浪　速6—0阿倍野

住　吉6—2阿倍野

住　吉9—3阿倍野

▼軟庭▲

大阪府高校庭球大会

北　野4—6阿倍野

山　本2—6阿倍野

大阪女学院6—8阿倍野

大阪女学院3—6阿倍野

大阪女学院6—0阿倍野

天王寺0—6阿倍野

梅　花2—6阿倍野

山　本4—6阿倍野

▼男子バレーボール部▲

天王寺商5—7阿倍野

天王寺商6—3阿倍野

羽　衣3—6阿倍野

成　蹊6—2阿倍野

府立高校大会

今宮2—0阿倍野

練習試合

住　吉4—0阿倍野

天王寺2—2阿倍野

旭　1—2阿倍野

大和川2—0阿倍野

天王寺商1—2阿倍野

阪　南2—1阿倍野

▼サッカー部▲

練習試合

田　辺2—2阿倍野

田　辺1—2阿倍野

国体府予選

三国丘0—0阿倍野

（コイン負け）

▼水泳部▲

インターハイ予選

大阪府立系高校大会

男八百m継　決勝七位

男百m平　決勝七位

女百m自由　決勝四位

女五十m蝶　決勝四位

▼女子バレーボール部▲

国体予選

寝屋川2—0阿倍野

府立高校大会

富田林2—0阿倍野

尚、右記以外にも大会はありましたが、原稿未提出の為、省かせていただきます。

久美浜臨海

一年生

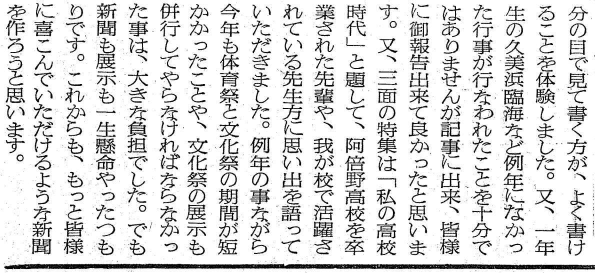
一年生は八月三日から七日まで二班にわかれ、先生と生徒間の親睦をはかるために、京都の久美浜へ臨海学校に行った。この臨海学校は、先生方と生徒との話し合いの結果、決まったので、楽しい三日間を過ごすことができた。これには、先生方とそれぞれの委員の努力があったからであろう。

待ちに待った出発の三日、みんな手に手に大きな荷物を持ち、元気よくバスに乗り込んだ。一人一人の顔は希望に満ちあふれた楽しそうな顔だった。目的地へ着くまで歌を歌ったり、ガイドさんの話を聞いたりして、とても楽しかった。しかし、当初の予定より一時間も遅れ、六時間余もバスに乗ったので、みんな少し疲れたようすだった。

不満の声も少し聞かれたバスの中から、山や川などのすばらしい景色を見ることができ又、都会とちがったのんびりとしたムードも感じられた。ようやく目的地久美浜に着いた時、「やっと着いたなあ」という声がみんなの間にささやかれた。目の前には、今年の六月にオープンしたばかりの真新しい建物があり、目を見張るほどのすばらしい景色！バスに乗った疲れもいっぺんに吹き飛んだ。玄関前に集合して、校長先生の話を聞き、各部屋の掃除にとりかかった。しかし、部屋の中は、きれいだった。それから、最初の行事の飯盒炊さんを行なった。考えていたよりも、りっぱにできた。みんな楽しそうにわいわいさわぎながらしていた。しかし、中にはうまくいかなかった班もあったようだ。うまくいかなかった班もぐちをこぼしながら仕方なさそうに食べていた。こんな楽しい風景は、学校ではなかなか見られないことだ。また、先生方も楽しそうだった。クラスの自由時間の時なども各クラス工夫をこらして、海へ行ったりゲームをしたりずいぶん楽しかったことだろう。また、期待していた海水浴も行なわれた。もう少し時間があれば、よいのにと思うほど、すばらしかった。海へ行くまでの道は砂浜だったので足が焼けつくような思いもした。海は少し波が高かったが、みんなは別に気にしている様子もなかった。いよいよ海へ入いった。たぶん今年初めての人も多かったと思う。それだけに、みんな元気がよく、海中へもぐって、やどかりをたくさん取ったり貝を取っている人もいた。みんな自分の取ったやどかりや貝を自慢したりもしていた。楽しかった海水浴も終わり、宿舎にもどった。その夜は、コーラスファイアーが盛大に行なわれた。日頃は歌などちっとも口に出さない先生方も歌われて思いがけない楽しい光景も見られ、生徒達はたいへん喜び、拍手も自然に起こり、雰囲気も大変盛り上がった。生徒の中からも特別出演が続出したりしてよけいにこのコーラスファイアーが印象づけられた。しかし、予定されていたフォークダンスは残念ながら中止になった。就寝前も枕投げをしたり、寝るまで楽しさが持続されているようだった。食事の後は、口に合わなかったのだろうか残された物がずいぶん多かった。日本海側だから少しは涼しいだろうと思っていたが暑くて暑くて、大阪にいるのとあまりかわらなかった。でも、明け方は少し涼しくて、中には「寒い」という人もいた。最終日の午前中に、一班は又、海水浴を行なったが、二班は雨ではいれなかった。海は、とてもきれいで、大阪付近のよごれきった海とは大違い。もっとここにいたいと思った人もたくさんいたことだろう。

臨海学校の楽しい行事をすべて終了し大阪へと向かった。みんな疲れていたようで、行く時のような元気さはなかったが、まだ元気な人も一部いて、その人達は最後まで大きな声で歌っていた。

久美浜で、友達と共に得た経験を、今後の学校生活に生かし、より楽しい高校生活を送っていこう



宿舎からのながめ！

編集後記

今回は、四面の紀伊田辺合宿を記事にするため、実態調査に行きました。聞いて書くより本当に自分の目で見て書く方が、よく書けることを体験しました。又、一年生の久美浜臨海など例年になかった行事が行なわれたことを十分ではありませんが記事に出来、皆様に御報告出来て良かったと思います。又、三面の特集は「私の高校時代」と題して、阿倍野高校を卒業された先輩や、我が校で活躍されている先生方に思い出を語っていただきました。例年の事ながら今年も体育祭と文化祭の期間が短かかったことや、文化祭の展示も併行してやらなければならなかった事は、大きな負担でした。でも新聞も展示も一生懸命やったつもりです。これからも、もっと皆様に喜こんでいただけるよう新聞を作ろうと思います。